

第1回 学校運営協議会 7月30日（金）10:00～ 校長室

出席者	会長	妹尾 久雄	（民生委員）
	副会長	渡部 昭司	（前教育部長）
	コーディネーター	矢野 真一	（前社会教育委員）
	委員	鈴木 綾	（主任児童委員）
	委員	小野 修平	（防災アドバイザー）
	委員	宮本 尚登	（明保中学校校長）
	委員	矢崎 慶	（明保中学校副校長）
		海老塚 京子	（明保中学校主幹教諭）
		小川 壮司	（明保中学校主幹教諭）

市教育委員会事務局（教育長、特命担当部長、教育企画課長、社会教育課長）

● 教育長あいさつ

本日はありがとうございます。

西東京市のコミュニティ・スクールについて、検討を重ねてきました。今年度より正式に発足させました。小学校から1校、中学校からは明保中学校がモデル校となります。

来年度以降、他校への拡充も検討していきたいと考えています。

地域と学校が連携して、子ども達の育成・教育のために意義のある取組をお願いします。なお、委員は様々なところで活躍されている方々なので、期待しています。

有意義な議論をお願いします。

● 委嘱状の交付

● 校長あいさつ

学校経営の柱として、「考える学校」を目指しています。生徒、保護者、地域の皆様が知恵を出し合って、教育活動を行っていきたいと考えています。

子どもを押さえつけるのではなく、子どもの可能性を伸ばしていくことが大切だと思います。

子どもに寄り添いながら、背景には何があるのか考え、個々を大切にしていきたいと思います。

学校経営方針については、別紙をご参照ください。

● 学校経営方針の承認

本協議会は、この学校経営方針について全員一致で承認する。

● 説明「学校として行いたい今年度の取組」

- ・ゲストティーチャーを活用した教育活動
- ・地域学校協働活動の充実（ボランティア活動の充実）
- ・VRの活用
- ・民間企業と連携した取組

● ここまでの内容での質疑応答

委員 西東京市の「子ども・地域応援企画提案事業」に応募する方法も考えられる。

委員 VRの内容としては、バンジージャンプ・吊り橋・ジェットコースター等、様々なコンテンツがある。

委員 予算としてはどうなのか。できるとすれば何をどうやるかを考えていかなければならない。民間の支援は受けられないだろうか。

委員 子どもの中には、VR体験をやりたくない子もいる。怖いことが苦手な子どもも、美しいもの鑑賞、美術館めぐり、海外旅行体験などいろいろな体験を組み合わせることで貴重な一日となるよう考えていくことが必要である。

委員 どれぐらい人数の子どもが、どのような体験をどのようにできるのだろうか。

委員 例えば、スケート体験・演劇鑑賞等はできないだろうか。

委員 他校の小学校でスケート体験を企画したところ、たくさんの応募があった。中学生はどうなるだろうか。スケート体験ではトレーナーをつけなくてはならないだろう。

委員 地域が学校のためにというインパクトが必要なのでは。

委員 あくまで学校行事として位置づけるのか。外部から講師を招聘するという形になるのか。

委員 育成会との連携も考えられるが、この運営協議会としてできればそれで良いのではないか。

委員 小学校でやった体験活動が中学校に繋がれば良いのでは。

委員 学校運営協議会でも子どもたちのために良い企画を考えていければ良い。

委員 それでは私が企画書を作成する。学校側も一緒にいろいろ考えてほしい。

● 熟議「学校と地域の協働活動について ～各委員が考える取組を中心に～」 (司会) 会長

委員 矢野さんより資料をもとに説明をお願いします。

委員 学校として地域として何ができるか、具体的に考えていきたい。

- ・ 学校における働き方改革について
- ・ 学びによるまちづくり・地域課題解決型学習・郷土学習について
- ・ 放課後子ども教室について

これは参加者が多いと聞いている。放課後を使って、中学生にも多様な活動をやってあ

げたい。

- ・ 放課後自習教室
学習したい子が学校で自習できるような場所を開放してあげたい。
- ・ 地域未来塾
学習支援を積極的に進めていきたい。地域の方に声をかけ、サポートしてもらいたい。
- ・ 家庭教育支援活動
寄り添いが必要な子供が実際に増えている。保護者が学び合う機会は必要である。
- ・ 学校に対する多様な協力活動
安全の見守り・環境整備・学習支援等、もう少しこういうことに力を入れていきたい。
防犯パトロールは身近なものとしてやってもらっている。保護者も一緒になってもう少し頑張っていきたい。
- ・ 地域行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画について
東中まつりを企画している。できたら明保中も一緒にできないか。
ボランティア活動等は、学習やまつりのサポート等多岐に渡って対応していきたい。
今後私たちは何ができるのか考えていきたい。現実には保護者会の活動等は女性が多い。できれば「おやじの会」を立ち上げたい。地域の避難所等には男性の力が必要不可欠である。

委員 提案を踏まえ、今年はどうするか検討したい。

まずは9月までにある程度何を何回やるか決めていきたい。そのためには提案の内容から絞り込みをしたい。

委員 具体的な活動を決めるために、子どもたちへ読み聞かせ等、もしものことを考え、安全に活動できるよう共通認識をもっていきたい。

委員 地域の方がたくさん校内に入ってくる。だれでも良いわけではない。信頼できる人から広げていくしかない。少なくともこの委員の方が知っている方に活動していただきたい。フリーのオープン参加は危険である。

委員 この約束は守ってほしいというルールを設けることが必要である。

委員 活動の方向性が決まったら、ルールもしっかり策定する。

委員 提案のアイデアは良い。

地域の小学校では広げすぎるのも心配している。少しずつ活動は減っている。中学生に合わせた企画をやっていきたい。例えば、ペンキ塗りなど。

委員 まず時間を考え、資源を考える。どんなものを提供できるか。

委員 校長先生とよく話し合い、連携して進めていく。

委員 具体的に何ができるのか、地域の方に来ていただいて話し合うことが必要である。

委員 ゲストティーチャーはすぐにできるが、それで良いというわけではない。

- 委員 いじめ、不登校等、子どもの SOS を取り上げないわけにはいかない。
- 委員 家に帰ってから勉強ができない環境の子どもたちがたくさんいる。そういう子どもたちに図書室を開放して勉強ができる場所を開放してあげたい。地域の中で孤立せず、明保中に行けば教えてもらえる、学習する場があるという状況にしてあげたい。
- 委員 以前は定期テスト前等に図書室が開放されていた。せっかくの図書室なので、活用のために開放していきたい。図書室の先生はどうなのか。
- 委員 今までは開放されていたが、今の図書室の担当の方はどんな形に勤務になっているのか。
- 委員 図書室の学校司書の方の勤務は偶数日が本校勤務、奇数日が小学校勤務となっている。学校司書の方と連携を取りながら、運営協議会で運営していただければよい。
- 委員 本委員会として、学校司書との連携も必要である。
- 委員 何を取り上げてやっていくのか、ある程度まとめたほうが良い。
- 委員 今日は何と何をやるか決め、9月に具体的な内容を決めていきたい。ペンキ塗りは子どもと一緒にできれば良い。
- 委員 まず一つはVR体験活動で良いか。他は何にするか。
- 委員 職業体験は商店会として様々なところが協力していただける。
- 委員 次回までに、地域人材をリスト化する必要がある。
- 委員 人が集まれるのか、時間を取ってできるのか呼びかけが必要。
- 委員 人材リストがあれば、連絡をすることができる。
- 委員 図書館の開放についても次回までに企画をしてほしい。
- 委員 学校の修繕等については「おたすけ隊」がやっていきたい。学校は何が必要かをリストアップしてほしい。
- 委員 ペンキは学校で用意できる。
- 委員 まとめると、①スケート体験
②VR体験
③職業体験・職業講話
④放課後の開放 について、次回検討していきたい。
- 委員 地域清掃に関しては、今までやってきたことを小学校と連携しながらやっていきたい。
- 委員 子どもの交流に対しては、コロナの問題の考慮する必要がある。
- 委員 本協議会の内容は、HP等でも紹介していただきたい。